

ISSN 1343-2788
CODEN : HKDKFT

八戸工業大学 食品工学研究所紀要

第 13 卷
2002年 2 月

THE BULLETIN OF
LABORATORY OF FOOD TECHNOLOGY
HACHINOHE INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Vol. 13

February, 2002





食品工学研究所の活動を振り返って

東北地方の産業構造は食品産業の占める割合が極めて高い。そのため、食品加工における技術の高度化が強く求められている。食品工学研究所は、このような状況の中で地元産業界の要望を受けて、バイオテクノロジーなどによる最先端の食品工学の研究を目的として1988年に設立された。

現在の研究組織は、所長と専任教授1名、そして各学科との兼任6名の計8名で構成されている。主な研究分野として、“高付加価値食品の開発”、“新規酵素の開発”、“微生物による環境保全”、そして“食品加工で発生する廃棄物の再利用”などがある。地域との連携を重視して、八戸インテリジェントプラザなどからの受託研究や助成研究を始めとして、地元企業への技術指導も行って来た。最近では、ホタテ貝殻セラミックスの有効利用に関する産学共同研究を精力的に進めるなど、成果を上げている。研究所での各分野における最新の研究内容は、本誌の中で詳しく紹介している。毎年行われる研究所巡りの行事では、研究室の公開と講演会を開いて地域の産業界との交流を図って来た。教育面でも本学の教育の一端を担っており、全学科を対象とした生物系の教養科目や化学実験、そして4年生の卒業研修の一部を分担して来た。

2002年4月からは、エネルギー工学科を主体として生物・食品および環境・化学系を取り込んだ「生物環境化学工学科」が誕生する。この新学科開設に当っては、本研究所は人的および研究・教育設備の面で大きく貢献している。今後も急激に変化する社会のニーズに合った研究組織にするため、改組も視野に入れた発展的な取り組みを進めていく。

ここに、これまで多くの研究・教育成果を上げて来られた研究所員の方々、そして多大なご支援を頂いた学内外の方々に心より感謝申し上げます。

平成14年2月

八戸工業大学 食品工学研究所
所長 岡村 隆成

目 次

報文

Studies on Microbial Degradation of a Detergent in a Water-Flow System

-----田 中 昇・小比類卷 孝幸・奥 田 慎 一 1

抗酸化食品の有効性と評価における諸問題-----若 生 豊 11

研究活動の歩み

各研究室の研究経過と成果----- 19

Index

Articles

Studies on Microbial Degradation of a Detergent in a Water-Flow System
-----Noboru Tanaka, Takayuki Kohiruimaki and Shin-ichi Okuda 1

The Significance of Dietary Antioxidants and the Problems
on these Evaluation Methods -----Yutaka Wako 11

Activities in the Laboratory of Food Technology

The Progress and Result of Resrarches in Each Laboratory ----- 19

研究活動の歩み

応用微生物研究室	奥田慎一
食品機能研究室	若生豊
食品化学工学研究室	青木秀敏
細胞工学研究室	貝守昇
反応工学研究室	福原長寿
無機材料工学研究室	小比類巻孝幸

八戸工業大学 食品工学研究所
紀要編集委員会委員

委員長 食品工学研究所 岡 村 隆 成

委員 食品工学研究所 奥 田 慎 一

” 若 生 豊 (幹事)

” 貝 守 昇

” 青 木 秀 敏

” 福 原 長 寿

” 小比類巻 孝 幸

八戸工業大学 食品工学研究所紀要 第 13 卷

2002 年 2 月発行

編 集 八戸工業大学食品工学研究所 紀要編集委員会

発 行 八戸工業大学食品工学研究所 岡村 隆成

〒 031-8501 八戸市大字妙大開 88-1

電話 0178-25-3111 (代)

印 刷 笹氣出版印刷株式会社

〒 984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 8 番 45 号

電話 022-288-5555 (代)



